

# 進路だより

第1号



令和5年 4月14日(金)

青森県立八戸東高等学校 進路指導部

## ◇75回生の進路状況

令和5年3月卒業の75回生の進路状況は、以下の通りとなりました。

★国公立大学合格(延べ) 94名

(総合・学校推薦型26名、前期日程57名、中・後期日程11名)

★私立大学合格(延べ) 168名      ★短期大学合格(延べ) 25名

★専門学校合格(延べ) 45名      ★公務員 7名、自衛隊 2名、民間企業就職 0名



## ◇合格体験記

今号では、進路目標を達成した卒業生の合格体験記を紹介します。成功例や失敗例などを参考にして目標達成の手がかりを探してみてください。

一人目は専門学校か国公立大かを相当検討した上で、苦手な小論文を克服した生徒の体験談です。外部の専門家からのアドバイスも大いに取り入れ、小論文がだんだん説得力のある文章になって行きました。

### 青森県立保健大学 健康科学部 看護学科合格(学校推薦型)

#### 「推薦入試への挑戦」

私は、2年生の時から青森県立保健大学に進学したいと考えていました。青森県立保健大学の看護学部は小論文の課題文が英語ですが、私は、英語を読むことや文章を書くことが苦手だったため、自分にはできるはずがないと感じていました。しかし、評定は1年生の時から維持してきたので、悩んだ結果、勇気を出してこの大学を受けようと決めました。試験は、小論文、作文、面接でしたが、私は小論文に一番力を入れて取り組みました。

受験を決めたからには絶対に合格したいと思い、小論文対策は少し早めに9月頃から始めました。最初は、小論文の型も分からず、800字を埋めることに必死でした。そこで、事実やデータをもとに説得力のある文章が書けるように、医療の情報や看護の資料を集めたり、医療、看護系の小論文の参考書を読むようにしました。その結果ある程度型にはめて小論文を書けるようにはなりましたが、まだ表現力が足りなかったり、知識不足で曖昧なことを書いてしまったりしていました。また、今回は良い文章が書けたと思って提出しても、先生からの評価を受けるとまだまだ努力が足りないと感じることもありました。受験1ヶ月前になっても思うように文章が書けない時があったり、英文を読むことに時間がかかり時間内に書けなかったりし、不安と焦りで毎日泣いていました。しかし、不安に感じているのは私だけではないので、今までやってきたことを信じて受験当日は、自信を持って試験に挑みました。実際、本試験では過去間でも触れたことの無い予想していなかった問題が出題されましたが、今まで調べてきた情報や知識を引き出し、最後まで書き切る事が出来ました。毎日、対策や添削をしてくださった先生方にはとても感謝をしています。

推薦入試は、不安と戦う精神力と、合格したい気持ちを強く持ち努力をする根性が大事だと思います。辛いことは沢山ありますが、耐えた分だけ結果がついてくると思うので、自分にとって苦手な科目や試験内容だとしてもぜひ挑戦してみてください。応援しています。

2人目は共通テスト利用の推薦入試で合格した生徒です。日頃から学業、運動部、生徒会に活発に取り組んでいました。共通テスト後の2月上旬に合格結果が出たのですが、2次対策講習に最後まで出席しました。最終日に「入学したらすぐにクラス分けのテストがあるので講習出て良かったです」と言っていたのが印象的です。そういう姿勢だからこそ、推薦入試の準備もしながら共通テストで自己ベストを更新できたのだと思います。

### 秋田大学 教育文化学部 学校教育課程 教育実践コース (学校推薦型選抜II)

私が受験した大学の推薦入試は共通テストも含み、その後に二次試験が行われるものでした。他の人に比べて時期が遅かったため、長く準備することができました。二次試験の内容は面接と小論文で、私がまず行ったのは大学について調べることです。志望理由書は無かったのですが、面接の時に確実に志望理由を聞かれます。その時に明確な理由がないと意欲が伝わらないので、他の大学と比較したりその県の特徴を探し、その理由や経緯など深く調べました。たくさん調べておくと答えられることが増えるので、面接の時に心の余裕が生まれると思います。夏休みに入ってから小論文の添削が始まりました。この時は小論文の内容というよりも小論文の書き方や流れを重点的に練習しました。

10月頃になって担当の先生が代わり、本格的に小論文の添削になりました。自分の考えを言語化するのが難しく、文末がワンパターンになってしまうことが多かったので、日頃から本を読んだり、人と自分の考えを話し合ったりして語彙力を高めておくべきだと感じました。受験の2ヶ月前から面接練習も加わり、ほとんど毎日放課後に残るようになりました。面接練習や小論文の添削を行っている時も他の人は勉強しているわけで、その差を埋めることは難しいです。模試の結果を見る度に点数が伸びず、落ち込みました。落ちたらどうしよう、推薦じゃなかったらもっと点数伸びたのかもしれないとずっと不安でした。それでも点数は落とすまいと、他の人が家でやっている分、授業に集中して取り組んでいました。また休日にも計画を立てて時間を有効に使っていました。

私の場合は小論文も面接も下手だったので、担任の先生や担当の先生、友人にも練習に付き合ってもらい、ひたすら繰り返し練習していました。面接で難しかったところは小論文同様自分の考えを言語化するところです。これは何度も練習するしかないと思います。言語化するのが苦手だと気づいてからニュースや学校での出来事に対し、自分の考えを家族に話すようにしました。そうすることで、自分の考えを整理できたり、家族の意見を聞いて自分と違う考えに気づけたりします。また面接で大事なことは、なりたい自分を明確に持つことです。漠然としたものではなく、具体的に自分が何をしたいかが重要です。それを軸に答えていくと自分らしさを出すことができるとも良い面接になるとと思います。

私は受験が終わった後も講習に出ていました。私の行く大学では一年次にTOEICを受験しなければならなかったからです。家では安心感から中々勉強出来なかったので、講習に出て他の受験生と一緒に勉強することができて良かったと思います。私は進路が決まるまで、他の人たちが合格して、講習をやめていくのを見るのがとても不安でした。推薦で早く進路が決まっても講習に出ると自分の学力維持にもつながるうえ、他の受験生に安心感を与えられると思います。学年全体の雰囲気も重要になると思うので、自分の受験が終わってもみんなと戦っているというのを忘れずに生活してほしいと思います。